

第5回病理解剖体慰霊祭 円山英昭	3
第166回地域医療講演会 杉本健太郎	3
イリザロフ法セミナーに参加して 森本麻美	4
臨床的な advanced course を受講 芝太郎	4
松木リハ部統括部長の退職にあたって	6
人物ルポ 339 管理部 西森千景	9
歯科医による周術期等口腔機能管理はじめます	10

目次

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2019年2月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

高知初
四国初

革新的な心臓カテーテル治療用の デバイスを用い世界水準の治療を

近森病院循環器内科 部長 西田 幸司



近森病院でも革新的な心臓カテーテル治療用のデバイス（治療器具）が新たに二つ使用出来るようになりました。高知県初の使用となった心臓補助装置であるインペラ、四国初の使用となった冠動脈石灰化の治療デバイスであるダイヤモンドバックについて報告します。

臨床使用高知県初 インペラ

心原性ショックを伴う心筋梗塞や心筋炎などの重症患者さんに機械的な循環補助装置として大動脈バルー

ンポンピング（IABP）、経皮的心肺補助装置（PCPS）が使用されています。しかしながら、これらの装置は循環補助の方法に問題点があり、十分な血行動態の改善と心筋の負荷軽減が出来ない場合があります。

当院でも2018年9月から使用可能になったインペラは、それらの問題点をクリアした新しい循環補助装置です。低侵襲なうえ迅速に導入でき、十分な補助循環を行えるようになったことが特徴で、今まで難渋していた心原性ショックを伴う心筋梗

塞や心筋炎に対しても安全に有効な治療が行えるようになりました。

2018年12月に多枝病変を有する心原性ショックを

伴う心筋梗塞の患者さんにインペラを使用しました。このような重症の患者さんへのカテーテル治療はいかに血行動態を崩さずに治療するかがキーポイントとなります。今回、インペラを使用することにより血行動態を十分安定させたいうでカテーテル治療が施行でき、非常に有効な症例でした。

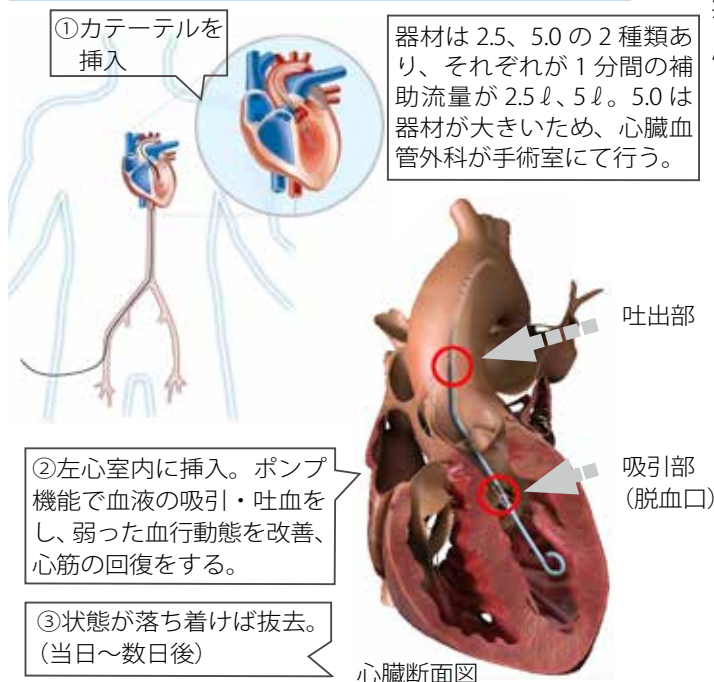
四国初使用 ダイヤモンドバック

冠動脈の石灰化は動脈硬化の末期像であり、心臓カテーテル治療においては未だにアキレス腱であるため治療が難しく、成績も芳しくありません。今まで我々はローターブレードというたった一つの武器を用いてこの難敵に立ち向かってきました。

次頁へ続く

インペラ

開胸手術をせず経皮的・経血管的にポンプカテーテルを挿入し、左心室内に挿入・留置したポンプカテーテルの吸入部から血液を吸引して、上行大動脈に位置した吐出部から送り出すことにより、順行性の体循環を補助します。



ダイヤモンドバック



▼特徴2 ●特殊なダイヤモンドコーティングの形状をしており、硬い石灰化病変のみを削り、柔らかい血管内壁の部分は削らないシステム。

▲特徴1 ●高速で軌道回転し、その「遠心力」によって血管壁に沈着した石灰化病変を除去する。よって、今までのローターブレードよりも、さらに大きい内腔を確保できるうえ、細い血管から太い血管まで1種類の製品で治療が可能。



前頁から続く このたび約 22 年ぶりにこの石灰化に立ち向かうための新しい武器として導入されたダイヤモンドバックは全く新しいコンセプトで石灰化を削り、治療成績を向上させるデバイスとして導入され期待されています。2019 年 1 月、高度

石灰化を伴う狭心症の患者さんにダイヤモンドバックを使用し、有効な治療を行うことができました。

世界水準をいち早く導入

これらのデバイスは日本に導入されたばかりで厳しい施設基準もあり、使用出来る施設も限られているため

まだまだ手探りの状態です。世界水準の治療方法をいち早く導入し、使いきなすことで高知県の患者さんに「質の高い心臓カテーテル治療」を提供することが、近森病院循環器科の使命の一つと考えております。

にしだ こうじ

看護部 キラリと光る看護



私は、40 歳になったのをきっかけに何の根拠も理論もない看護を行っている自分に気がつきました。「残りの看護師人生の 20 年をこのまま終わっていいのか?」「何とかしなければ」という思いから、急性期看護

残りの看護師人生の 20 年を このまま終わっていいのか?

救急看護認定看護師

看護師特定行為研修修了者 川村 佳代

関連のセミナーを受けに行くようになりました。高知はもちろん、大阪、名古屋、東京まで自費で出向いていました。そんなある日、こんなに旅費や宿泊費をかけるなら『いっそのこと自分が教える立場になればいいのでは?』と考え、大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程へ進みました。

認定看護師取得後は、近森病院へ入職し、病棟スタッフとして勤務しながら新人研修や院内研修の講師をさせていただきました。

2016 年には近森病院看護師特定行為研修を受ける機会に恵まれ、これまでの知識が点から線へと繋がるようになりました。2017 年 6 月からは看護師特定行為研修指導者として受



講生に関わらせていただいています。

現在、特定行為研修のカリキュラムに加え救急看護認定看護師としての知識も織り込みながら、研修指導を行っています。「特定行為に看護はない」という方もいらっしゃいますが、看護の視点を忘れることのない看護師特定行為研修修了者育成を目指して今後も頑張っていきたいと思っています。

かわむら かよ

3月の歳時記

菜の花

近森病院北館 5・6 階病棟
歯科衛生士
近藤 加奈子



「菜の花」、私の大好きな花の一つです。3 月になると、以前妊娠中に大きなお腹で散歩していた時に、たくさんのきれいな菜の花を見たことを思い出します。花言葉は「活発」「元気いっぱい」「小さな幸せ」などです。

たくさんの想いを込めて娘に「菜乃」と名付けました。小さな幸せを大切に元気いっぱいに成長してほしいです。

こんどう かなこ



● 近森看護学校通信 33 ●

この 1 年を振り返って

近森病院附属看護学校事務局 濱崎 世菜

看護学校事務局員として早くも 2 年目を迎えました。去年オープンキャンパスに参加し、目を輝かせていた高校生だった 4 期生が、今では白衣を着て実習をしています。

患者さんのことを真摯に考え、夜遅くまで課題に取り組む姿は看護師のたまごそのもので、たった 1 年で大きく成長できるということを感じ取れました。

2 年生は臨地実習、3 年生は国家試験対策中です。夢に向かい仲間と励ましあう姿や病院で卒業生が懸命に働いている姿はとても輝いて見えます。

今後も学生の皆さんを精一杯サポートできるよう、相手への思いやりの心を持って取り組みます。

はまさき せな

病理解剖 慰霊祭

近森病院病理診断科 部長 円山 英昭



今回の慰霊祭では、第一に昨年（平成30年）1年間に本院で病理解剖させていただいた14柱の御霊の御冥福をお祈り申し上げます。

あわせて、深く大きいお悲しみのなか、最愛のご家族の解剖をご承諾いただいたご遺族の皆様方の尊いお気持ちに感謝の念を捧げたいと思います。

病理解剖に関して

①「剖検輯報」：わが国では、全国の大小の医療施設で実施された病理解剖の結果は、日本病理学会監修の下、剖検輯報として年度毎に集計され、1974～2016年の43年間で、総計1,148,375人の皆様の解剖結果は世界

でも有数の膨大な医療データとして活用されています。

②「初期臨床研修制度」：わが国の医学部卒業直後の医師臨床研修制度は、平成16年度から根本的に改正されこの新制度では卒後2年間の研修期間中に、他の多くの臨床項目の他に、病理解剖に関連する事項も必修項目

の一つに新たに加えられています。

私達は、患者さんに接する医療人として、病理解剖から学んだ知識や経験を最大限に活用し、より完全で、より適切な医療の実践に努めます。合掌。

えんざん ひであき

▼多くの医師が献花に訪れた ▼理事長より追悼の言葉



岡山大学大学院医歯薬学
総合研究科麻酔・蘇生学講座
助教 清水一好先生

この度の地域医療講演会では岡山大学から清水一好先生をお招きしてお話をいただきました。先生は麻酔科医であると同時に集中治療医でもあり、ICUで多くの時間を過ごされています。

そんな清水先生の選ぶ、ICUに関する最新のトピックには、敗血症・患者リスクの層別化・せん妄・筋力低下・早期離床・tele ICUなど、バラエティーに富む内容で、清水先生の臨床経験と最新の知見がミックス

ICUに関する最新のトピック

近森病院麻酔科
科長（部長代行）杉本 健太郎



され、お話しの内容も非常に分かりやすかったです。

近森病院は76床と多くの集中病床をもち、重症患者さんを救うために多くのスタッフの方々が働いていますが、ICUに入室される患者さんの予後を変えうる管理を提案していただけたと思います。

尊敬する偉大な先輩のお話を直接聴け

るのはとても素晴らしいことだなと思いました。清水先生、ありがとうございました。

すぎもと けんたろう



イリザロフ法セミナーに参加して

近森病院整形外科 森本 麻美



今回、2018年12月1、2日の2日間タイのコンケン大学で、イリザロフ創外固定器を用いたイリザロフ法セミナーに参加しました。

この研修は、下肢を中心とした解剖ならびにイリザロフ創外固定術の手技を研修するものであり、金沢大学整形外科学教授土屋弘行先生に講

師を務めていただきました。普段の診療では見られない下肢の解剖学的機能を細部まで観察することができ、手術手技についても講師の先生方からさまざまなアドバイスをいただきました。

イリザロフ創外固定器は、リング型の創外固定器です。イリザロフ創

外固定器によって、脚延長術や変形矯正術など、「組織を徐々に延長して再建する」ことが可能となりました。また、外傷などで受傷した軟部組織や骨に対して、極めて低侵襲かつ強固な骨接合術が可能となるため、開放骨折や高度の変形・骨欠損などに対しても有用な治療方法です。

現在高知県内でイリザロフ創外固定器は、当院を始めとした数施設でのみ使用可能です。イリザロフ創外固定器を装着した患者さんには、見慣れない形をした創外固定器の装着に慣れていただく必要がありますが、整形外科チーム一丸となってサポートします。今回学んだ経験を、今後の治療に活かせるよう、さらなる努力を積み重ねていきたいです。

もりもと あさみ



▲ 1列目右から2番目が土屋先生



イリザロフ創外固定のイメージ画像▲

■ 出張報告 ■ Advanced Principles of Fracture Manage

2018年12月2～8日

今回は臨床的な advanced course を受講

近森病院整形外科 芝 太郎



昨年に引き続きスイスで開催される AOTrauma Course に参加させていただきました。

アルプスの山間部にあるダボスという小さな街で年に1度開催される骨折治療のコースです。

ダボス経済会議で有名なこの街はもともと結核治療のサナトリウムで栄えたそうです。いまでは AOFoundation の骨折治療の研究機関本部があり、骨接合治療の原則理念を世界中の外傷外科医に発信しています。

当院の整形外科には年に1、2回ほど外国の先生が勉強に来られていますが、それも AO foundation からの留学です。

昨年度は basic course に参加させていただきました。今回は臨床的な advanced course を受講させていただきました。諸外国の先生方とディスカッションする際は英語なので自身の英語力の低さを痛感させられましたが、同じ志で集まる方々との交流はとても刺激的でした。

毎朝日の出前に会場に行き、会場

を出る頃には日も沈んでおり、観光する間もまったくない1週間ですがとても有意義な時間を過ごせました。

1週間もの長期間勉強会に参加させていただけるチャンスを下さった近森病院と衣笠統括部長をはじめ、近森病院職員の皆様にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

今後、今回学ばせていただいたことを臨床に還元できるように努力していきます。

しば たろう

私の趣味

ドラム

近森病院総合心療センター
デイケアパティオ 作業療法士 戸梶 英子



私の趣味は、去年の秋から娘二人と一緒に始めたドラムです。元々娘の習い事にと始めたドラム。付き添いで観ていた私に、ドラムの先生が「お母さんも一緒にやったらいい」と誘ってくれたことがきっかけでした。

両手、両足を使いこなしながら安定したリズムを刻み続けるのは、本当に難しく、出来ない自分に歯がゆさを感じます。しかし、やり遂げた時の達成感やリズムを刻む爽快感は、本当に心地が良いものです。やり始めて気づいたのですが、ドラム

を叩く時に頭で考えすぎると上手くリズムが打てません。全身を使ってリズムを刻む感覚は、なんだか踊っている時の感覚に似ています。以前の趣味はよさこいを踊ることでした。趣味が踊りからドラムへと変わりましたが、身体でリズムを刻むことが好きだという本質は、変わらないようです。

子供が生まれてから、仕事に子育て、家事に追われる毎日。しばらく趣味はお預けかと覚悟していましたが、まさか思いがけないきっかけで趣味が始められるようになるとは、そして娘達との共通の趣味を持つたことに感謝しています。

いつかQueenのWe Will Rock Youや吹奏楽でおなじみのSwing, Swing, Swingを気持ちよく演奏できることを夢見て、細く長く娘達と一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

とかじ えいこ

ハッスル研修医

社会人としての成長を感じた一年



初期研修医 船曳 隼大

東京から高知へ初期研修に来てもうすぐ1年が経とうとしています。初めは医師としての仕事どころか、方言で言葉も聞き取れないことも多く戸惑うこともありましたが、それもだいたい慣れてきたように思います。

この一年を振り返ってみると、社会人としての自覚が足りないとこもあり、たくさん叱られてきました。そのたびに上級医の先生方の言葉をかみしめ、誠実に自分自身を見つめ直し、一步一步自分のペースで成長して来られたと思ひます。

同期と比較してまだまだ未熟なところも多いですが、自分で患者さんのためにできること、考えられることの幅が増えていくことでやりがいを感じ、さらに成長したい、周りよりもできるようになりたいという気持ちで仕事に向き合っております。

4月になると多くの先輩方はいなくなり、新しい後輩たちが入ってきます。後輩たちには今まで先輩方から教わってきたように、一歩進んだ社会人として責任感を持って仕事のやりがいを伝えていきたいと思ひます。

ふなびき としひろ

近森会 保育室 **そると** 節分

近森病院

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連施設から認定施設へ

職員対象 第90回
チカモリ・シネマクラブ



36年の歩み

リハビリテーション部 統括部長 理学療法士 松木 秀行

専門学校を卒業後、温泉地リハのメッカであった伊豆で6年間過ごし、昭和58年に高知に帰省しました。就職を近森病院に決めた理由は、当時PT、OT、ST、SWの職種が揃っている所が高知県に2カ所しかなく、その一つである近森病院に恩師の勧めもあり決めました。

駅前の分院で透析と長期の患者さんをPT3名OT1名で訓練をしていました。3年後に石川誠先生（現、輝生会会長）が分院に着任され私に最初に指示した仕事は、ベッドの脚きりとベッド柵の取り付けでした。当時のベッドは畳に布団が敷かれ、ベッド柵の取り付けができず、高さは腰まであり患者さんの能力が病棟で活かされない環境でした。その後、重度の患者さんを自宅に帰す活動が始まり、週末、祝日を利用し訪問活動を行いました。在宅生活の3本柱と

して定期的に「往診」「訪問」し、何かあれば「入院」ができる体制をとることで在宅生活を支援していた活動が後に訪問診療、訪問看護、訪問リハに繋がったと思います。療法士が訪問して行うことは、家族と自宅の風呂に入れることでした。風呂に入るため服を脱ぐことで皮膚の状態、関節の動きや痛み、本人の動作能力を見て必要な訓練が選択でき実際のADL場面での訓練の重要性に気づかされました。

平成元年、近森リハ病院開設以来、一人の療法士が入院から退院、外来まで担当していましたが入院班と外

来班に分け、入院班は病棟訓練の導入から病棟配属、そして365日体制の導入へと回復期リハ病棟の草分けとなり、今は早出・遅出の実施までに至りました。一方でこの間、近森病院新館の完成や在宅総合ケアセンターの開設、近森オルソリハ病院の開設など建物ごとに病院の機能分化が進みました。

これまで多くの人に支えていただきその体制作りや運営をしていくことができました。また、自分自身の成長に繋がることもできました。本当にありがとうございました。

まつぎ ひでゆき

松木統括部長、お疲れさまでした。



退職に寄せて

近森リハビリテーション病院

リハビリテーション部 部長 理学療法士 小笠原 正

仕事をさせていただきました。

私が就職した年は、ちょうど近森リハ病院の初代院長である石川誠先生が赴任してきた年で、近森会のリハの改革が始まった年でもありました。それ以降、松木さんは継続医療室（現在の訪問看護）の立ち上げや、近森リハ病院の立ち上げ、近森病院のリハ部の再構築、回復期リハ病棟の立ち上げから、現在のリハ病院の立ち上げまで、めまぐるしく変わる体制のなかで、いつも先頭に立ってリハ部を引っ張ってくれました。また臨床では、中枢神経疾患のアプローチや、装具療法に関しては、一目置

かれる存在として、色々と指導していただきました。

今では現場でやり取りをすることが少なくなりましたが、松木さんが現場でリハをしていた頃は、どんなアプローチをしているか、横目で見ながら仕事をしていたことを思い出します。そんな先輩が、退職され、我々のそばからいなくなると思うと、少し寂しくなりますが、これからは、好きなゴルフを楽しみながら、第二の人生を謳歌していただきたいと思っています。本当に長い間お疲れさまでした。

おがさわら ただし



初めて松木リハ部統括部長にお会いしたのは、私が学生の頃、中伊豆リハセンターに臨床実習に行ったときで、今からかれこれ40年ほど前になります。その時松木さんは、同センターに就職されており、職員と学生という関係で、厳しい指導も受けましたが、今考えれば良い思い出となっています。その後4年ほどたち近森会に就職したとき、一足先に松木さんが近森会におられ、それ以来、私は松木さんと、33年間一緒に

各院の取り組み成果を共有し質の向上へ

近森病院看護部

副看護部長（業務担当） 齊藤 尚子



看護部では、グループ全体でQC活動に取り組んでいます。毎年各部署でテーマや目標を掲げて活動しており、今年度の活動報告会は1月19日(土)に開催しました。QC活動とは、品質管理の手法を用い業務の課題解決に取り組み、その品質の適正保持・効率化・改善などの対策を考え実践する活動で、さまざまな医療行為を「品質」の視点で捉え、患者満足の向上や医療安全の推進に役立てようという取り組みのことで

す。今年度は31部署からの報告がありました。最優秀賞を受賞したのは救命救急病棟で、近い将来起こりうる大災害に備え、スタッフ全員が初

期行動・待機行動が実践できるよう取り組まれていました。その他の部署もそれぞれに問題点を見出し、退院支援や業務内容・手順の見直し、コスト削減などに取り組み成果をあげることができており、とても参考になる有意義な報告会であったと思います。(結果は表の通り)

QC活動は継続していくことが大切です。今後も常に「患者さんのために」を考え、患者満足・職員満足につながる活動が継続できるよう支援するとともに、組織全体で取り組む改善活動へと広がっていくことができると考えています。

さいとう なおこ

公開県民講座のお知らせ

QC 活動報告の結果

	部署	グループ名	テーマ
最優秀賞	救命救急病棟	救命病棟にまかしちよき!	大災害発生!! ~その時あなたは どうする? Part2 ~
優秀賞	北館4階病棟	内服自己管理ハンパねえ~	入退院を繰り返さない内服管理 を目指して!そだねえ~!
敢闘賞	北館3階病棟	With J	残業時間減らしたい~早く終 わっておうちに帰ろう~

〽️ 熱烈応援

緊張と喜悦の間で



高知ハビリテーリングセンター
児童・相談部 部長 元木 智之

入職をするにあたって色々な書類で自分の歴史を振り返ることが多くあり、社会人になってもう十数年が経っていることを何度も自覚させられました。気づけば40歳手前になりましたが働き始めた頃の気持ちを思い出しつつ、新しい環境と分野でこれまでの経験を活かし、日々精進していきたいと思っております。よろしく
お願い致します。

もとき ともゆき

お弁当拝見 69 好きなものを活かに



近森リハビリテーション病院
言語聴覚士 福田 ゆか



食べることが好きな私は、お弁当に入れるご飯のお供を少し贅沢にします。周りからの口コミで、美味しいと聞いたものをネットで取り寄せお弁当に詰めます。おかずは、母が作ってくれたものや季節の野菜が中心です。

以前、県外に住んでいたことがあり、高知に戻ってきた時に改めて高知の野菜の美味しさに気づき、一層好きになりました。

お弁当に好きなものを詰めると、

開ける楽しみがあります。食べた後の満足感もあり仕事の活力になります。これからもお弁当を食べて頑張ります! ふくだ ゆか



ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

お酒の楽しみ方 3 モルトウイスキー編

グレンタレットと有害動物駆除員

ウォルトン・バー 川田 宏治

今回ご紹介するグレンタレットはハイランド地方中部地域に位置する蒸溜所で、エジンバラから車で1時間で行ける訪れやすい蒸溜所です。

かつてここで飼われていたタウザーという「ねこ」は15、16歳まで生きただことでも有名ですが、生涯に28,899匹のネズミを狩ったといわれています。後継はアンバー。現在はそのアンバーも引退していると思われます。高齢のため片目が潰れており、タウザーの誕生日にはローカル新聞の記者が取材に来るそうです。

敷地内に穀物を蓄えるためほとんどの蒸溜所はねこを何匹か飼っており、毒薬やガスを使わないこの方法が良いウイスキー造りに欠かせないのでしょ



う。

発芽した大麦をフロアーにひろげて乾燥させるあいだ、鳥獣を見張る彼ら(彼女ら)の役目はけものへんに苗と書く字にぴったりだと思いませんか？

この蒸溜所のモルトは軽めで花のような感じですが熟成年数の長いものはクリーミーでふくよかな味わいで、とても魅力的なものがあります。

かわだ こうじ

人の動き 敬称略

おめでとう

2019年1月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,979人
新入院患者数	947人
退院患者数	849人

近森病院（急性期）

平均在院日数	15.26日
地域医療支援病院紹介率	76.19%
地域医療支援病院逆紹介率	265.36%
救急車搬入件数	601件
うち入院件数	307件
手術件数	386件
うち手術室実施	253件
うち全身麻酔件数	158件

● 2019年1月 県外出張件数 ●

件数 28件 延べ人数 36名

編集室通信

先日、ポテトチップス「濃いめのり塩」を購入しました。自分が昭和に就職して、平成を迎えて、それが終わることを表記で実感しています。あと三カ月間にできることは少ないかもしれませんが、まずは、ポテチを食べてから考えます。流行と賞味期限は大事なことは分かった年頃です。 やまもり

じっくりと、しかも一直線で…

やりきった感と穏やかな日常

「頑張っ！を、これ以上は言えないくらい頑張っている。でもそれを声高にアピールしない常識人。異動直後に立入検査、4か月後には適時調査と、かなりハードだったと思います」

直属の上司である小松左和事務長の、西森補佐に対するこのコメントで、「西森補佐の近ごろ」を想像できるだろう。

ひたすら頑張る。それをあまりアピールはしないが全力投球だから、やりきったという達成感もあり、心は穏やか。

近森会に入職後、企画課へ着任し、学術大会の事務局を担当した。その後、僅か半年で現在の事務長補佐職に異動。着任当初は分からないことばかりで不安も大きかったようだ。

が、最近は、「医療の現場が少し見えてきたように思えますし、オルソの運営に関しても、近くで臨場感が持てるようになってきました。医療の世界の面白みも感じ始めていますし、居心地もいい。半年過ぎて少し自信も出てきましたし、やり甲斐ある仕事に就けて、とても良かったと思っています。すでに病院の風土にも馴染んできたようです。

人生設計の転換

これまで縁の薄かった医療の世界への転職は、家族の病気や子ども達の生育環境への配慮がきっかけになった。

前職の東京海上日動に就職したのは、慶應義塾大学卒業後、グローバルな保険グループでどこまで頑張れるか力試しもあり、また日常に欠かせない損害保険業のやり甲斐を思ったためもあった。16年勤めた。個人のお客様から大企業相手の保険まで、「責任の重い仕事」も任せられ、重圧も充実感もありつつ、体力的なきつさを感じ始めていた頃、故郷の父親に深刻なガン之余命の宣告。

ここまで必死で走ってきて、ふと立

ち止まり「将来」に思いを馳せ、人生設計の大きな転換を迫られることになったのだろう。

結局、親元に帰り、故郷の高知で直すことにした。Uターンと転職という大きな決断だった。

柔道一直線

両親は、ずっと学習塾を営み、母親は現在も現役。還暦はとうに過ぎたが、相変わらずのペースで働いている。

千景さんは幼い頃から柔道に打ち込んできた。「一度始めたことは、最後までやりきる」という両親の考えもあり、身体が大きかった兄が始めたことをきっかけに、弟の千景さんも小学校に上がってすぐからついていくようになったのだ。

歳の近い兄は常にライバルだった。頑張り屋の負けず嫌いに育つ絶好の目標にもなったようだ。ちょっと勝てるようになるともっと強くなりたいからもっと頑張る。中学校でも高校でも。結局大学時代も続けた。千景さんは、「納得できるまで極めたい性分なんだと思う」とのこと。なにごととも一直線がじっくりくるのだ。だから今後は医療の世界での一直線を目指す。ついながら、「若い頃つけた筋肉は戻りやすいから、鍛え直したい」そうで、町の柔道場に娘たちと通い始めている。

なんとか力になりたい！

前職ではいろいろな業種の企業との取り引きを経験した。自動車メーカー、製薬メーカーでのPL（製造物責任）事故・訴訟、家電メーカーのリコール対応、東日本大震災などの自然災害による甚大な被害その他、企業の命運がかかるような場面に直面することもあり得る緊張感や緊迫感。自動車保険を担当した時には、被害者に対して、加害者に代わってお詫びに伺うとか、脊髄損傷まで負ってしまった患者さんに対応したり。

なんとか力になれないものかとモガいても、保険会社としてできること



は、結局はお金で解決するしかない現実…。

体重を10キロ落とすに十分なプレッシャーを受けてもきたようだが、いまはその幅広く経験できたことを、これからの仕事に活かしたいと誓っている。「この数字の根拠は？」と、それをしっかり理解して自分のものにしていく姿勢は、そんな前職の経験も関係してくるのだろう。

春へ向けて、オフには畑仕事

満員電車や人混み、水、食べ物など、都会暮らしと田舎の違いは身にしみて感じるそうだが、なんとといっても「いちばん大きい違いは空気。これはお金では買えませんから…」。

そのキレイな空気のもと、オフには力を入れたい農作業で汗を流し、春へ向けての畑仕事の計画もすでに着々と進めているらしい。



▲オフには子ども達と畑で「農作業！」



歯科医による周術期等口腔機能管理はじめます



4月1日スタート

周術期チーム医療に歯科医師も参画します

岡山大学病院 医療支援歯科治療部 岸本 智子 先生

4月から月・火・水の週3日勤務させていただくことになりました、岡山大学病院医療支援歯科治療部の岸本です。私の他に、吉富、曾我が隔週で週1日勤務させていただくことになりました。

私たちが所属する治療部は大学病

院で医科診療と密接に連携し、周術期で入院されている患者さんの口腔の管理等を専門としています。近森病院では現在7名の歯科衛生士が、患者さんの口腔ケア、食支援などで活躍されています。

歯科医師の診査・診断で、管理計

画をさらに充実したものにするとともに、地域の歯科医院との連携推進に役立ちたいと考えています。近森病院が推し進める先進的なチーム医療をさらに強固なものにするため貢献したいと思います。

きしもと ともこ

非常勤医師紹介

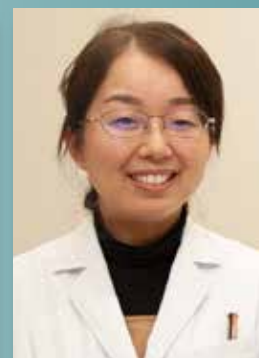
岡山大学病院 医療支援歯科治療部



岸本 智子先生



曾我 賢彦先生



吉富 愛子先生



チーム医療最後のピース

近森病院 副院長
心臓血管外科 主任部長 入江 博之

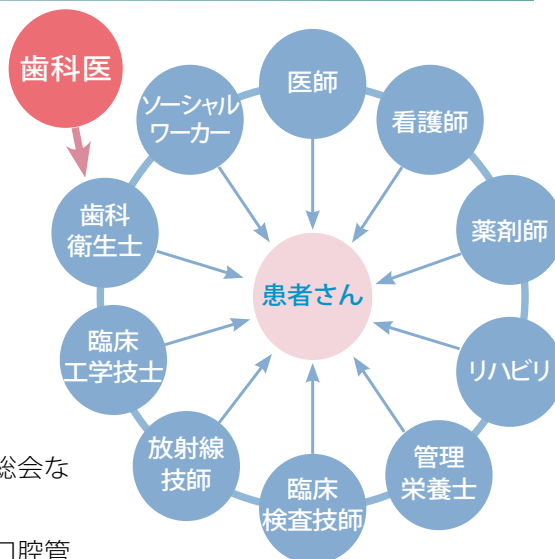
2000年に集中治療室をつくって以来、多職種精鋭による医療チームを形成してきました。重症患者さんを的確に治療するためには、各職種がそれぞれの専門的知識と経験を持ち寄り、効率よくしかも正確に情報交換と方針決定を行う必要があります。

近森病院は高度な急性期チーム医療を行う病院として全国にその名を知られるようになりました。現在も歯科衛生士が周術期の口腔管理を行い、感染症の予防や早期食事開始と回復に貢献してくれています。その

結果はすでに日本循環器学会総会などで発表しています。

今回、そのチームに周術期口腔管理を得意とする歯科医が加わってくれます。レベルアップするチームは、高齢化していく患者さんが、大きな手術や治療を乗り越える強力な助けになるものと期待しています。

いりえ ひろゆき



▲集中治療部 各専門職による朝のカンファレンス